

専門委員会開催報告

専門委員会名	第6回「確率論的リスク評価の活用及び手法調査」研究専門委員会
開催日時	2021年2月24日(水) 13:30 ~ 16:45
開催場所	ウェブ会議@Webex
参加人数	18名 牟田主査, 井手幹事, 新崎幹事, 高原幹事, 當房幹事, 池側委員, 石川委員, 氏田委員, 江藤委員, 蛭澤委員, 北田委員, 木村委員, 佐藤委員, 竹次委員, 竹田委員, 玉置委員, 成宮委員, 山野委員
議 事	<p>1. 第5回委員会開催報告の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告案につき了承いただいた。 <p>2. 報告書内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緒言、活動概要、活動成果 <ul style="list-style-type: none"> - 牟田主査より説明があり、委員会にて議論した。 ・ 3.1 レベル1PRA(人間信頼性解析/従属故障/故障データ/動的解析を除く)に関する現状認識及び提言 <ul style="list-style-type: none"> - 牟田主査より説明、江藤委員より補足の説明があり、委員会にて議論した。 ・ 3.2 レベル1PRA(人間信頼性解析/従属故障/故障データ/動的解析)に関する現状認識及び提言 <ul style="list-style-type: none"> - 氏田委員、新崎幹事、池側委員より説明があり、委員会にて議論した。 ・ 3.3 レベル2及び3PRAに関する現状認識及び提言 <ul style="list-style-type: none"> - 玉置委員より説明、山野委員より補足の説明があり、委員会にて議論した。 ・ 結言 <ul style="list-style-type: none"> - 牟田主査より説明があり、本日の議論を踏まえて書き直すことを確認した。 <p>3. 今後の進み方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の議論を踏まえて、分担して報告書に加筆を実施する。 ・ 春の年会では、その時点で得られた成果を概略説明する。 ・ 幹事団にて報告書としてとりまとめる。 ・ メールにて全員で確認する。 ・ 最終報告は秋の大会で実施する。
備 考	なし

専門委員会開催報告

専門委員会名	第5回「確率論的リスク評価の活用及び手法調査」研究専門委員会
開催日時	2020年10月28日(水) 13:30 ~ 16:45
開催場所	ウェブ会議@Webex
参加人数	18名 牟田主査, 井手幹事, 高原幹事, 當房幹事, 池側委員, 氏田委員, 江藤委員, 蛭澤委員, 北田委員, 木村委員, 佐藤委員, 竹田委員, 武田委員, 竹次委員, 玉置委員, 成宮委員, 増山委員, 山野委員
議 事	<p>1. 第4回委員会開催報告の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告案につき了承いただいた。 <p>2. 各グループ検討結果を共有し議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ1(池側委員) <ul style="list-style-type: none"> - HRA、データ、マルチユニット、CMF に関する論文分析とそれ以外の観点、今後の人材育成方針について意見集約した結果を共有。 - マルチユニットの考え方、PRA の目的(活用と技術開発、役割分担)、HRA の不確かさ、CMF、HRA の拡張、データについての現状認識等について議論。 ・ グループ2(江藤委員) <ul style="list-style-type: none"> - 主にレベル1PRAに関するPRA技術、PRA活用、人材育成について意見集約した結果を共有。 - 核燃料施設のリスク評価、PRAの初心者教育(教科書、非競争領域における共通教育)、リスク部会の年齢層の拡大等について議論。 ・ グループ3(玉置委員) <ul style="list-style-type: none"> - レベル2PRAの事象の進展に応じて評価すべき項目、データや研究の実施状況および現状のコメントを集約し共有。 - 小型炉を検討対象に含むか等について議論。 <p>3. 今後の進み方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの提案をブラッシュアップする ・ 各グループの提案をベースに報告の方向性を検討(幹事団) ・ 各グループへ報告書作成依頼 ・ 報告書案の取りまとめ(幹事団) ・ 年明けの委員会で内容確認(承認後、学会報告) ・ 報告(春の年会、リスク部会全体会議あるいは部会セッションの一部)
備 考	なし

専門委員会開催報告

専門委員会名	第4回「確率論的リスク評価の活用及び手法調査」研究専門委員会
開催日時	2020年6月16日(火) 13:30 ~ 17:00
開催場所	ウェブ会議@Zoom
参加人数	18名 牟田主査, 井手幹事, 新崎幹事, 當房幹事, 高原幹事, 池側委員, 氏田委員, 江藤委員, 蛸澤委員, 久保委員, 佐藤委員, 竹田委員, 武田委員, 玉置委員, 成宮委員, 北田委員, 石川委員, 山野委員
議 事	<p>1. 第3回委員会開催報告の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告案につき了承いただいた。 <p>2. 令和元年度活動報告(案)に関する議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果物(研究マップ、今後の研究方針の提言、人材育成の方針提言)、議論のステップと論点(各グループの検討結果の整理)、今後の活動予定について議論。 ・ 「リスク」をどこまでの範囲をとらえるのかということ自体も検討課題として取り上げて言及することを確認(特に、防災、リスコミ、マルチユニット・サイト・エリア)。 <p>3. グループ別議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究マップの作成及び今後の研究課題について、3つのグループ別に、「PRA技術の現状」、「今後の課題」及び「人材育成」について議論。また、個別の技術・研究分野、活用分野・方法等については、各委員で分担して具体的な内容を整理。 ・ 各グループでの議論の概要 <ul style="list-style-type: none"> - グループ1(新崎幹事) 内的及び外的事象 L1PRA(マルチユニット・サイトリスク、従属故障、HRA、動的PRAの各カテゴリ)の研究達成状況や課題、人材育成の方向性について議論。いずれのカテゴリにも多くの課題があり、リスク評価以外の専門家を含めた取り組みが必要であるといった議論を実施。 - グループ2(牟田主査) 主として内的及び外的事象 L1PRAの活用について議論。STEP1:何が起こるのか?, STEP2:どう対策するか?, STEP3:どう活かしていくか?の3段階で今後の研究方針等をまとめていく方向を確認。 - グループ3(成宮委員/石川委員) L2、3PRAの個々の技術要素の達成状況を参考文献も入れた研究マップとして仕上げていることを確認。技術開発・研究開発の目標(環境影響)への重要度から優先順位を色分けすることも必要との議論を実施。 <p>4. 次回の委員会(第5回委員会)以降のスケジュール等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の計画として少なくとも年度内に2回(9月末~10月、1月くらい)を予

	<p>定。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 次回までの宿題(①マップの改訂版の作成、②委員会としての提案のたたき台(=今回の議論の内容をメモとして全体で共有することから始める(～6/30)、③たたき台をもとにして個々に再検討してグループ内で資料をまとめる。)・ 委員会としての提案については、研究の方向性、人材育成、活用分野・方法を含める。
備 考	なし